本と地域の情報誌
県北どらくろあ
第126号　2026年9月1日（毎月1日発行）

新・芸備線ストロール①　備後三日市駅（みっかいち）

「列車通学の最寄り駅と駅&人生相談ノート」

8月17日月曜日、朝の9時半に自宅を出た。いつもの車ではなく歩き。6月の腰の手術後、本格的に歩くのは今日が初めてなので、ドクターの指示で使用を止めていたコルセットを締めた。腰は安定したが、猛暑で汗がふき出てくる。

10分ほどで備後庄原駅到着。窓口で備後三日市までの切符を買う。距離にして2キロぐらいなので、料金も150円と安い。1・2番線ホームから9時57分発の三次行きに乗った。新・芸備線ストロールのスタートである。通学時間は過ぎているし、今は夏休み期間なので、学生たちの姿はない。乗り込んだのがわたしを入れて3人、先客が4人いた。

自分の生活エリアなので、どこを走っているのかはわかるのだが、車窓から見る景色は新鮮だった。汽笛のような警笛を何度か響かせながら、車両は備後三日市駅に到着。乗車時間は2、3分だ。

ひとりホームに降車した。備後三日市駅に来たのは初めてだった。わたしにとっては憧れの駅だった。広島県立庄原格致高校の生徒だったとき、隣の三次市から通って来る生徒もけっこういた。下校時、仲の良い友達と一緒に校門を出るが、三日市駅に向かう生徒とはすぐに別れる。列車に乗って通学することに憧れを抱いていた。

昭和5年（1930年）、芸備鉄道により三日市停留場として開設された。昭和8年、芸備鉄道国有化に伴い、鉄道省庄原線所属となる。同時に停車場に昇格し、備後三日市駅に改称された。

最初から駅舎はなく、無人駅だったようだ。武田祐三氏の名著「芸備線」には「伝統を誇る無人駅」と形容されている。ホームには小さな待合室。わたしが格致高校に通っていた50年前と同じものかどうかは、調べてもわからなかった。しかし、木のベンチは何度もペンキが塗りなおされているようで、かなり年季が入っている。

クリアケースに駅ノートが置かれていた。今年の5月の書き込みで「岡山より松江→宍道→備後落合→なう」と旅程が記されている。座席が埋まるほど乗客がいたそうで「今は何でもAIの時代になり効率第一になっていますが、そのなかでも変わらぬ光景を見にあえてゆっくり走る一両列車に揺られる日も新鮮でいいなあと改めて感じさせてくれる一日になっています」、しみじみと同感。

もう一冊「人生相談ノート」がある。パラパラとページをめくると「今日はバレンタインデーですが、今年もチョコレートもらえませんでした。もっと自分をみがきます!!」。ていねいな赤字の“回答”も書かれている。他にも、学生だけではなく、社会人の書き



最初から駅舎のない無人駅だった


「おおぶけさん」と呼ばれている上原八幡神社

発行：どら書房

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会